

(2) 久慈川の生物

1) 久慈川の植物

久慈川は全川の的に農耕地としての利用が多くみられ、耕作放棄地にはセイタカアワダチソウ、アレチウリ等の外来種の侵入が顕著にみられる。また、下流域では公園・グラウンド利用等も多くなっている。

また、中流域の高水敷にはマダケの水害防備林が全国有数の規模で残っており、久慈川の河川景観の大きな特徴となっている。タケ類はもともと繁殖力が強い上に、近年では竹林の管理がされなくなったため、生育域が拡大している。

水際線には湿地等の環境も多く見られるが、乾燥化したり、分断化される傾向にあり、連続性が失われつつある。しかし、粟原から上流域には、まとまったヨシ原が形成され、良好な環境が比較的維持されている。

全川をとおしては、冠水頻度の高い高水敷や水際線では、比較的自然度が高い植生が維持されているが、河原に依存する植物は減少傾向にある。

表 6-1 久慈川で見られる主な植物

水 域	水際線	河 原	冠水頻度の 高い高水敷	冠水頻度の 低い高水敷	河辺林の構成種
ヒシ	ミソソバ	オオイヌタデ	サクラタデ	草本類	ヤナギ類
キクモ	ハンゲショウ	カワラナデシコ	ヤナギタデ	コウヤワラビ	アカメヤナギ
ホザキノフサモ	<u>オランダガラシ</u>	カワラアカザ	<u>カワチシヤ</u>	イタドリ	カワヤナギ
<u>フサモ</u>	セリ	カワラケツメイ	サデクサ	ハナタデ	コゴメヤナギ
<u>コカナダモ</u>	ヘラオモダカ	カワラハハコ	ミソハギ	アブラナ	タチヤナギ
エビモ	サジオモダカ	カワラヨモギ	チョウジタデ	メドハギ	イヌコリヤナギ
	オモダカ	ツルヨシ	<u>ネズミムギ</u>	<u>オオブタクサ</u>	オノエヤナギ
	<u>ミスアオイ</u>		イ	ユウガギク	ネコヤナギ
	キショウブ		オギ	<u>セイタカアワダチソウ</u>	広葉樹(高木)
	<u>キシユウスズメノヒエ</u>			コヌカグサ	ヤマハンノキ
	クサヨシ			カゼクサ	ハンノキ
	ヨシ			ススキ	シラカシ
	マコモ			つる植物	ムクノキ
	<u>ミケリ</u>			イシミカワ	エノキ
	<u>クコノアシ</u>			カナムグラ	ケヤキ
	ヒメガマ			ツルマメ	<u>ハリエンジュ</u>
	ガマ			クズ	アカメガシワ
	コガマ			<u>アレチウリ</u>	ネムノキ
	ホタルイ				広葉樹(低木)
	ヌマガヤツリ				シロダモ
	マツカサススキ				ヒサカキ
	カンガレイ				ヌルデ
	サンカクイ				竹笹類
	ウキヤガラ				マダケ
					<u>モウソウチク</u>
					アズマネザサ
					メダケ

注1) 平成9年度河川水辺の国勢調査(植物調査)をもとに作成

注2) _____ は、外来種。

注3) は、保全上重要な植物種(環境庁レッドデータブック植物(2000)掲載種、

または茨城県版レッドデータブック<植物編>(1999)掲載種)。

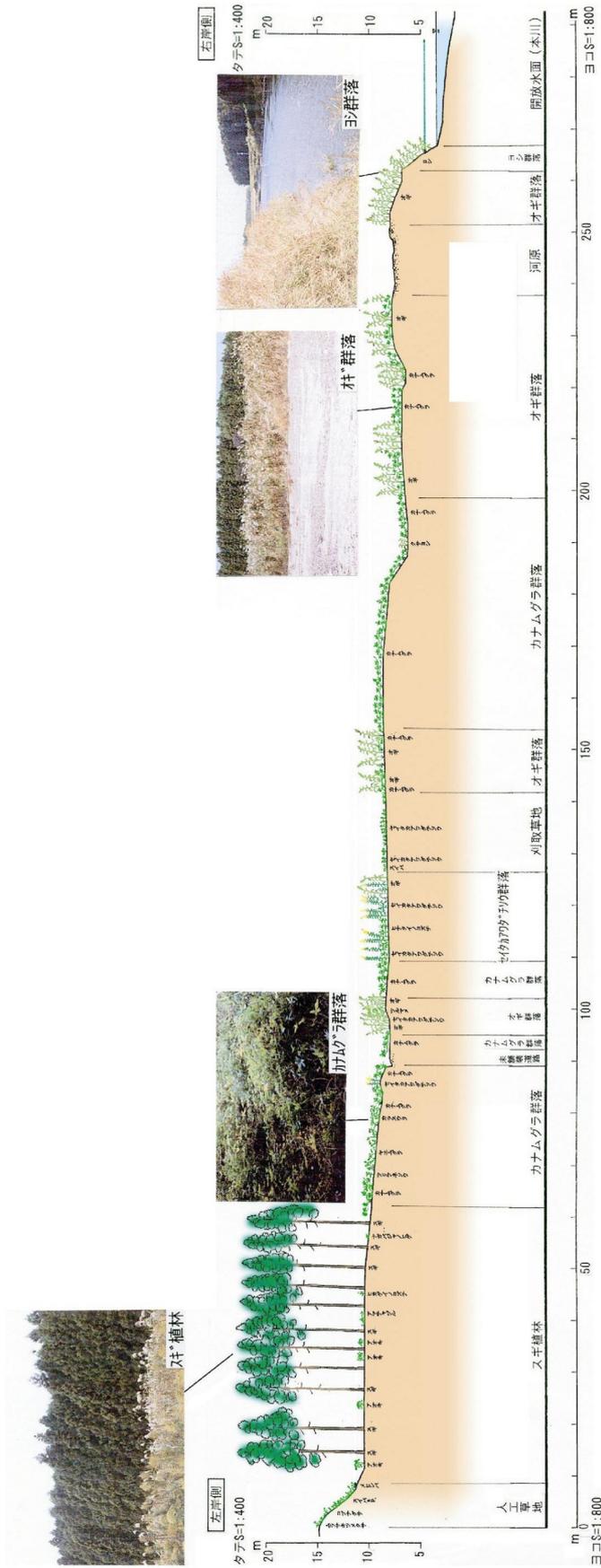


図 6-3 13.0km 地点における植生断面図

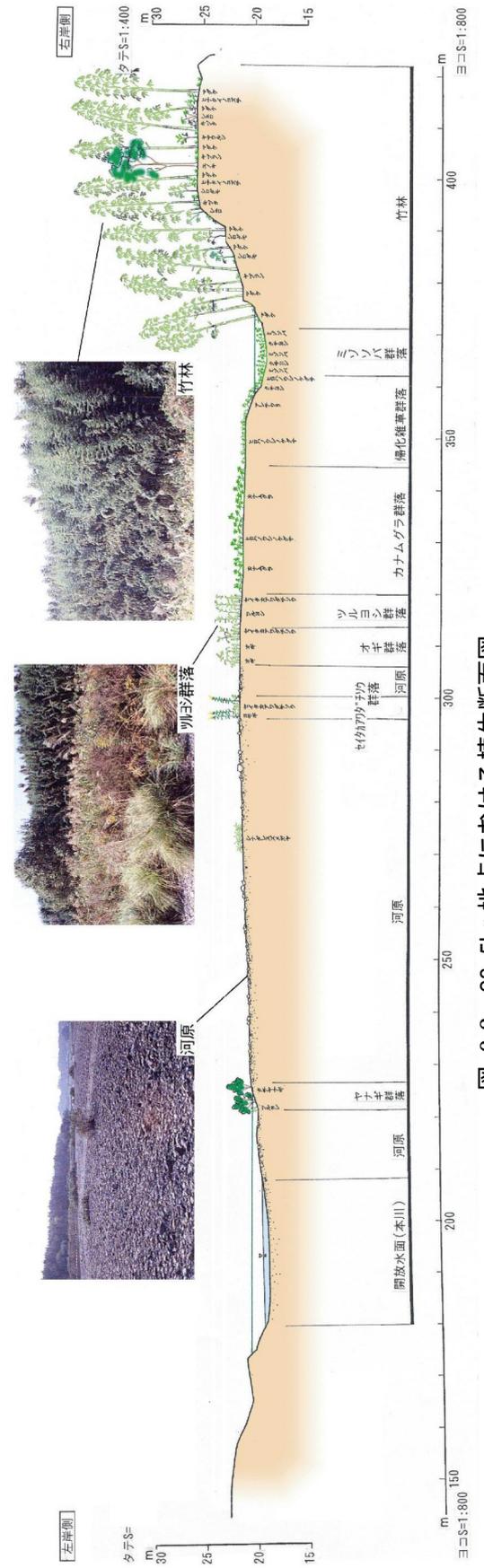


図 6-3 28.5km 地点における植生断面図

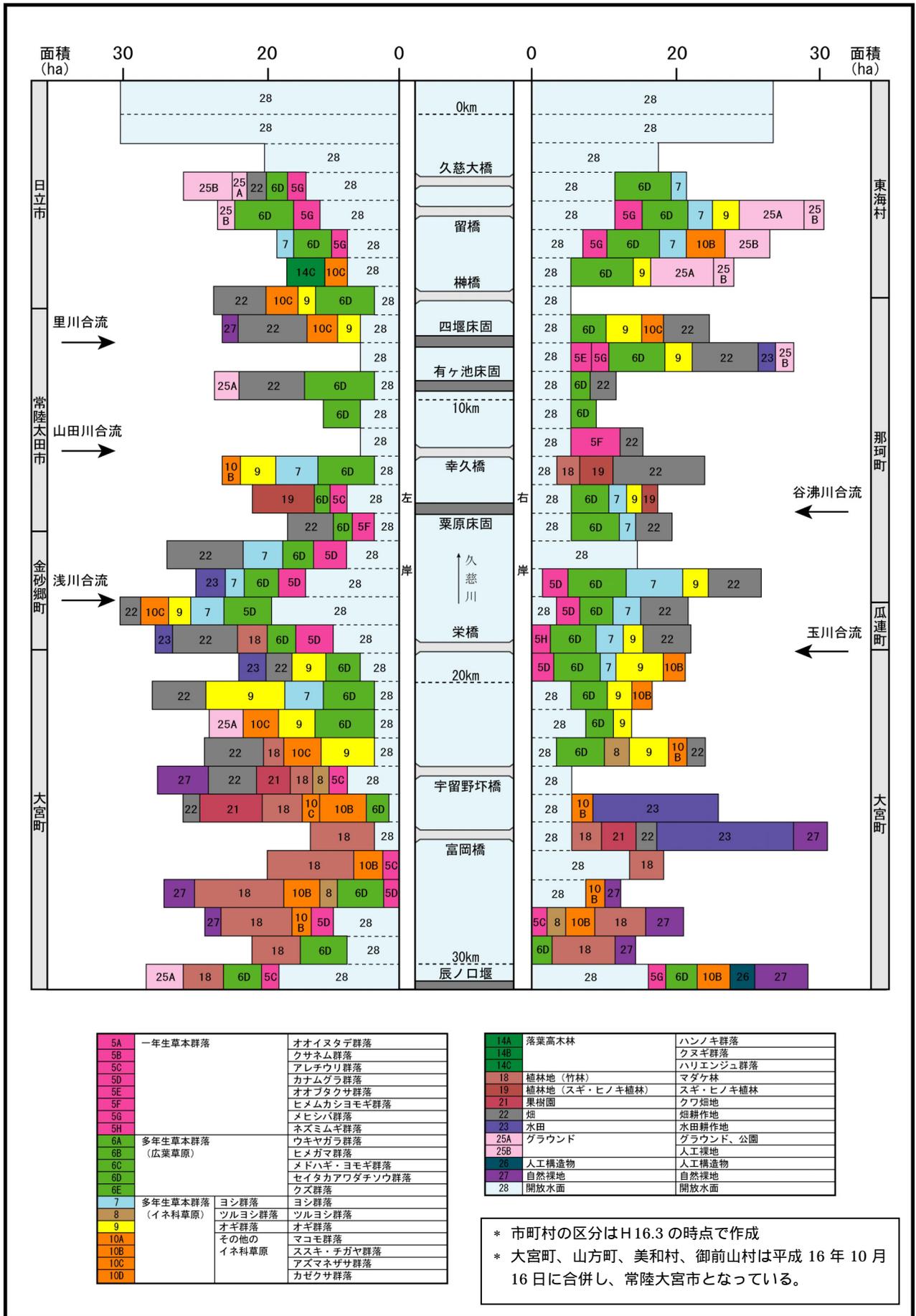


図 6-4 久慈川本川 1kmピッチ植生群落図

表 6-2 直轄管理区間内の植生群落面積集計表

単位：ha

基本分類	群落名	久慈川		山田川		里川	
浮葉植物群落	ヒシ群落	0.50	0.08%	0.00	0.00%	0.00	0.00%
砂丘植物群落	コウボウシバ群落	0.06	0.01%	0.00	0.00%	0.00	0.00%
一年生草本群落	オオイヌタデ群落	2.41	0.37%	0.52	0.87%	0.15	0.22%
	クサネム群落	0.79	0.12%	0.26	0.43%	0.00	0.00%
	アレチウリ群落	11.36	1.73%	0.86	1.44%	3.84	5.64%
	カナムグラ群落	23.71	3.62%	6.49	10.85%	3.87	5.68%
	オオブタクサ群落	3.47	0.53%	0.06	0.10%	0.31	0.46%
	ヒメムカシヨモギ群落	9.02	1.38%	0.51	0.85%	0.69	1.01%
	メヒシバ群落	19.74	3.01%	3.34	5.59%	3.46	5.08%
	ネズミムギ群落	5.45	0.83%	4.91	8.21%	4.09	6.01%
	多年生草本群落 (広葉草原)	ウキヤガラ群落	0.23	0.03%	0.00	0.00%	0.00
ヒメガマ群落		0.27	0.04%	0.00	0.00%	0.00	0.00%
メドハギ・ヨモギ群落		1.71	0.26%	0.02	0.03%	0.15	0.22%
セイタカアワダチソウ群落		121.26	18.49%	6.67	11.16%	8.89	13.06%
クズ群落		3.80	0.58%	2.60	4.35%	3.69	5.42%
イネ科草原(ヨシ)	ヨシ群落	35.85	5.47%	1.19	1.99%	0.54	0.79%
イネ科草原(ツルヨシ)	ツルヨシ群落	19.46	2.97%	4.78	7.99%	2.37	3.48%
イネ科草原(オギ)	オギ群落	50.03	7.63%	3.85	6.44%	4.49	6.59%
イネ科草原 (その他の広葉草原)	マコモ群落	0.47	0.07%	0.00	0.00%	0.00	0.00%
	ススキ・チガヤ群落	36.58	5.58%	1.90	3.18%	0.99	1.45%
	アズマネザサ群落	28.39	4.33%	3.99	6.67%	2.13	3.13%
	カゼクサ群落	1.39	0.21%	0.19	0.32%	0.15	0.22%
ヤナギ低木林	タチヤナギ群落	6.25	0.95%	0.12	0.20%	0.13	0.19%
ヤナギ高木林	タチヤナギ高木林	0.32	0.05%	0.00	0.00%	0.00	0.00%
その他の低木林	ヌルデ群落	0.51	0.08%	0.00	0.00%	0.00	0.00%
落葉高木林	ハンノキ群落	0.29	0.04%	0.00	0.00%	0.00	0.00%
	クヌギ群落	1.23	0.19%	0.37	0.62%	1.45	2.13%
	ハリエンジュ群落	4.32	0.66%	0.59	0.99%	0.16	0.24%
植林地(竹林)	マダケ林	56.84	8.67%	4.36	7.29%	4.54	6.67%
植林地(スギ・ヒノキ植林)	スギ・ヒノキ植林	10.39	1.58%	0.02	0.03%	1.14	1.67%
植林(その他)	植栽樹群	1.46	0.22%	0.00	0.00%	0.00	0.00%
果樹園	クワ畑他	10.67	1.63%	0.00	0.00%	0.71	1.04%
畑	畑耕作地	79.41	12.11%	0.48	0.80%	10.69	15.70%
水田	水田耕作地	27.62	4.21%	1.31	2.19%	3.16	4.64%
人工草地	人工草地	0.22	0.03%	0.00	0.00%	0.00	0.00%
グラウンド	グラウンド、公園	17.59	2.68%	0.00	0.00%	0.00	0.00%
	人工裸地	20.90	3.19%	0.00	0.00%	1.51	2.22%
人工構造物	人工構造物	11.62	1.77%	8.18	13.68%	3.10	4.55%
自然裸地	自然裸地	30.10	4.59%	2.22	3.71%	1.68	2.47%
合計(開放水面除く)		655.67		59.79		68.08	

色付は優占10種

表 6-3 久慈川の植物群落 優占上位10種

群落名	久慈川	群落名	山田川	群落名	里川
セイタカアワダチソウ群落	18.49%	人工構造物	13.68%	畑耕作地	15.70%
畑耕作地	12.11%	セイタカアワダチソウ群落	11.16%	セイタカアワダチソウ群落	13.06%
マダケ林	8.67%	カナムグラ群落	10.85%	マダケ林	6.67%
オギ群落	7.63%	ネズミムギ群落	8.21%	オギ群落	6.59%
ススキ・チガヤ群落	5.58%	ツルヨシ群落	7.99%	ネズミムギ群落	6.01%
ヨシ群落	5.47%	マダケ林	7.29%	カナムグラ群落	5.68%
自然裸地	4.59%	アズマネザサ群落	6.67%	アレチウリ群落	5.64%
アズマネザサ群落	4.33%	オギ群落	6.44%	クズ群落	5.42%
水田耕作地	4.21%	メヒシバ群落	5.59%	メヒシバ群落	5.08%
カナムグラ群落	3.62%	クズ群落	4.35%	水田耕作地	4.64%

注) 色付は、外来種を示す。

(「河川水辺の国勢調査(平成9年度植物調査)」をもとに作成)

河川を特徴づける植物

久慈川を特徴づけている植物としては、水害防備林を構成するマダケ、メダケ等が筆頭にあげられる。マダケ、メダケ等については河川という環境に依存している植物ではなく、もともと植栽されたものである。

河川という出水による攪乱の影響を受ける環境でのみ生育が可能な植物を、河川を特徴づける植物とし、その中から久慈川で見られる草本類をあげれば、カワラハハコ、カワラヨモギ、カワラケツメイなどが着目される。これら植物は、洪水による攪乱によってその生育が維持されている植物である。

また、河川を特徴づける木本類としてはヤナギ類があげられ、久慈川においてはアカメヤナギ、カワヤナギ、ネコヤナギ、イヌコリヤナギ、オノエヤナギ、コゴメヤナギ、タチヤナギの7種類のヤナギが確認されているが、まとまった群落を形成している地点は比較的少ない。



写真提供:奥田重俊氏
カワラハハコ (キク科)

< 生育環境 >

主として川の上流から中流域の、平時は乾燥し、洪水時には冠水する礫質の河原に生育する。



写真提供:奥田重俊氏
カワラヨモギ (キク科)

< 生育環境 >

河原や海岸の日光の照りつける砂地に生える。また、カワラノギク、カワラサイコなどと混生する。



写真提供:奥田重俊氏
カワラケツメイ (マメ科)

< 生育環境 >

日当たりの良い河原の乾いた砂礫地や道ばた、草地などに生える多年草。



写真提供:奥田重俊氏
カワヤナギ (ヤナギ科)

< 生育環境 >

河川の中流から下流域にかけての泥湿地に比較的にかたまって生育する。氾濫時の流路跡の、開けた裸地などに多い。



写真提供:池田 正氏
ネコヤナギ (ヤナギ科)

< 生育環境 >

河川の上流から中流域の河床の岩地間隙や砂礫地に群生する。他のヤナギ群落に比べると、貧栄養地に発達している。



写真提供:奥田重俊氏
オノエヤナギ (ヤナギ科)

< 生育環境 >

山地または原野の礫地や河原などに広く生育する。

久慈川における帰化植物

帰化植物とは、明治維新以降に日本に入ってきた外国産の植物である。わずか140年あまりで久慈川では22.2%、山田川では21.9%、里川では25.4%（直轄管理区間内の植生群落面積割合）が帰化植物で占められている。

河川は、毎年の出水により生育個体が掃流され裸地となった後は、帰化植物にとって侵入しやすい環境となる。

久慈川に大規模に侵入している帰化植物としては、セイタカアワダチソウ、ネズミムギ、アレチウリ、シナダレスズメガヤなどが挙げられる。



写真提供：奥田重俊氏

外来種：セイタカアワダチソウ
（キク科）

< 生育環境 >

土手、荒れ地など比較的乾燥した高水敷に生育する多年草。

（原産）北米



写真提供：奥田重俊氏

外来種：アレチウリ（ウリ科）

< 生育環境 >

河原の泥地や土手など、平地の日当たりの良い、開けた荒地に生育し、地面を覆い尽くすように繁茂する。

（原産）北米



写真提供：奥田重俊氏

外来種：ネズミムギ（イネ科）

< 生育環境 >

路傍、空き地、植栽法面などに生育する越年草。

（原産）欧亜大陸

保全上重要な植物

直轄管理区間を対象として実施されている平成9年度河川水辺の国勢調査(植物調査)で確認された保全上重要な植物は、以下に示す13種である。このうち11種が湿地環境に生育する植物であり、この状況からも久慈川沿川における湿地環境の保全は重要であると考えられる。

表 6-4 河川水辺の国勢調査(植物調査)で確認された保全上重要な植物

科名	種名	選定根拠
ツツラフジ科	コウモリカズラ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物<植物編>」 危急種
ユキノシタ科	タコノアシ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物<植物編>」 希少種 「日本の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータブック)植物 改訂版」 絶滅危惧 類
ミソハギ科	ミズキカシグサ	「日本の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータブック)植物 改訂版」 絶滅危惧 IB 類
アリノトウグサ科	フサモ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物<植物編>」 危急種
ゴマノハグサ科	カワヂシャ	「日本の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータブック)植物 改訂版」 準絶滅危惧種
キク科	アキノハハコグサ	「日本の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータブック)植物 改訂版」 絶滅危惧 IB 類
オモダカ科	アギナシ	「日本の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータブック)植物 改訂版」 準絶滅危惧種
ヤマノイモ科	ニガカシュウ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物<植物編>」 希少種
ミズアオイ科	ミズアオイ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物<植物編>」 危急種 「日本の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータブック)植物 改訂版」 絶滅危惧 類
イネ科	コゴメカゼクサ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物<植物編>」 希少種
ミクリ科	ミクリ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物<植物編>」 危急種 「日本の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータブック)植物 改訂版」 準絶滅危惧種
カヤツリグサ科	アワボスゲ カンエンガヤツリ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物<植物編>」 希少種 「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物<植物編>」 危急種 「日本の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータブック)植物 改訂版」 絶滅危惧 類

注) は、主に湿地環境に生育する植物。

環境庁レッドデータブックは平成12年7月に公表された植物(維管束植物)編を使用。

茨城県版レッドデータブックは平成9年3月に刊行された植物編を使用。



写真提供: 宮脇成生氏
ミズアオイ科
ミズアオイ

環境省 RDB
絶滅危惧 類
茨城県 RDB
危急種

沼や溝、水田に生えるほか、栽培もされる一年草。県南部の池・沼やハス田に生育している。



写真提供: 奥田重俊氏
ミクリ科
ミクリ

環境省 RDB
準絶滅危惧
茨城県 RDB
危急種

各地の池沼や水路、水湿地などの浅い水中に群生する多年草。泥底の浅い水中から直立する。



写真提供: 奥田重俊氏
カヤツリグサ科
カンエンガヤツリ

環境省 RDB
絶滅危惧 類
茨城県 RDB
危急種

河畔や湖岸の湿地に生える大型の一年草。叢生して大きな株となる。茨城県内に点々と数カ所の生育地が知られている。



写真提供: (財) 埼玉県生態系保護協会
カヤツリグサ科
アワボスゲ

環境省 RDB
-
茨城県 RDB
希少種

山麓や低地の湿地、河畔湿原などに生育する多年草。茨城県北部から南部の山地に数ヶ所の生育地が知られている。

イネ科
コゴメカゼクサ

環境省 RDB
-
茨城県 RDB
希少種

低地の湿地に生育する一年草。河原の裸地に生える。